

区分	科目	1年次		2年次		3年次		4年次		DP	DP	DP	DP	DP	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	①	②	③	④	⑤	
専門科目	必修科目	声楽実技Ⅰ								●		●	●	●	
		声楽実技Ⅱ								●		●	●	●	
		声楽実技Ⅲ								●		●	●	●	
		声楽実技Ⅳ								●		●	●	●	
		合唱Ⅰ								●		●	●	●	
		合唱Ⅱ								●		●	●	●	
		合唱Ⅲ								●		●	●	●	
		卒業演奏								●		●	●	●	
		学内演奏								●		●	●	●	
		ソルフェージュA								●					
		器楽実習								●		●	●		
	理論Ⅰ(和声初級)								●						
	選択科目	声楽アンサンブルA								●		●	●	●	
		声楽アンサンブルB								●		●	●	●	
		オペラ基礎演技A・B								●		●	●	●	
		オペラ実習Ⅰ								●		●	●	●	
		オペラ実習Ⅱ								●		●	●	●	
		声楽演習Ⅰ(フランス歌曲)								●		●	●	●	
		声楽演習Ⅱ(スペイン歌曲)								●		●	●	●	
		声楽演習Ⅲ(ロシア歌曲)								●		●	●	●	
		声楽演習Ⅳ(ドイツ歌曲)								●		●	●	●	
		声楽実習(コレパティツィオーン)								●		●	●	●	
		ボディテクニック								●		●	●		
		古典舞踏								●		●	●		
		舞台語発音法								●		●	●	●	
		副科実技								●		●	●		
		理論Ⅱ								●					
		ソルフェージュB								●					
共通科目		一般教養科目									●				
	専門基礎科目									●					
	外国語科目Ⅰ												●		
	外国語科目Ⅱ												●		

声楽科では、「高い専門性と豊かな人間性を有した芸術家、芸術分野の教育者・研究者及び芸術に携わるすべての実践者を養成する」という東京藝術大学の使命のもと、以下のような実践的な授業を受講することができます。

実技科目
 (1)個人レッスンを中心とした声楽実技・演習・オペラ実習
 声楽実技の個人レッスンでは、それぞれの学生の声種・タイプ、成熟度に合わせて、声楽における楽器としての身体づくりや、発声に関する基本的なことはもちろん、より高度で専門的な技術を学ぶための授業が行われます。歌曲やオペラ・アリアなど、学生に合わせた課題を選び、その楽曲の様式、時代背景、使用されている言語などのついて学びながら、個々の学生に適した細かい指導が行われ、期末・学年末の実技試験、学内演奏会などを通じて、実践的な演奏を経験します。また、各演習や舞台語発音法など、各国の歌曲や言語について実技演習形式の専門的な授業が行われます。さらに、オペラの基礎的な足がかりとして、オペラ基礎演技(2年次)、オペラ実習(3・4年次)の授業が行われています。
 (ディプロマポリシー①③④⑤)

(2)合唱、声楽アンサンブルなどの授業
 複数の声と合わせる形態をとる授業として、合唱、声楽アンサンブルを重要なものとして位置付けています。合唱の授業では、合唱定期と、ベートーヴェン作曲「第九」ハンデル作曲「メサイア」、の各演奏会に出演します。声楽実技のようなマン・ツー・マンで行われる授業では実現できない表現を体得することができます。
 (ディプロマポリシー①③④⑤)

カリキュラム
 3年次には、各講座において、自主性を重んじた選曲による「学内演奏会」が、4年次には4年間の声楽実技の集大成としての「卒業演奏」が、それぞれ奏楽堂で行われます。また各学年末には、3年次に「安宅賞」、4年次に「松田トシ賞」の選考も行われます。
 (ディプロマポリシー①③④⑤)
 そのほか音楽家としての基礎を築く科目として、ソルフェージュや和声等の基礎的科目(ディプロマポリシー①)、国際的なコミュニケーションや留学、文献研究等に必要な外国語(ディプロマポリシー⑤)や、専門基礎科目、教養科目を学びます。(ディプロマポリシー②)
 声楽には必須の共演する楽器であり、音楽を包括的に理解することに役立つピアノは副科として必修で、その他のいくつかの楽器も副科として履修することができます。(ディプロマポリシー①③④)
 また主に国外からの講師を招いての「特別講座」が行われることがあります。

大学院では、学部で培った演奏技術や音楽表現をさらに高度なものに発展させ、プロフェッショナルな音楽家としての自立を目指します。また学部には引き続き、「声楽実習」として個人レッスンをし、加えて「楽曲分析演習」として、高度に専門的かつ広範な視野に立ち、深い学識を得るために研究します。1年次には、年度末に「修士リサイタル」を行います。研究テーマに則したプログラム（15分～20分）を演奏します。

また、「声楽特殊研究」では、日本・ドイツ・イタリア・フランス・英米の歌曲と、宗教音楽・重唱（アンサンブル）等の多くの選択肢を設けており、幅広く研究することができます。論文執筆については、「歌曲分析演習」「音楽リサーチ法」「原典特殊講義」などの授業により研究することができます。関連知識を深めるために、選択科目としては「学部開設科目」「他専攻の授業科目」を履修することもできます。

学位取得において、「演奏審査と論文審査の両方」または「演奏審査のみ」の2つの形態から選択することが可能です。学位審査会において評価され、合格した者には、「修士（音楽）」の学位が授与されます。

大学院では、学士課程の教育によって得た成果を発展させ、オペラ歌手に求められるより高度で専門的な知識と技術を、学生たちが効果的に学習することができるよう教育課程が構成されています。

具体的には「声楽実習・楽曲分析演習」（個人レッスン）と「オペラ総合実習」（1年次のオペラ・ハイライト公演、2年次のオペラ定期公演）を軸として、基礎的な身体表現について学ぶ「オペラ実習 A・B」、作品の歴史的情報や周辺情報について学ぶ「オペラ特殊研究 A」、コレペティートルによる指導で作品解釈と表現力向上を目指す「オペラ特殊研究 B」が必修科目として開設されており、オペラ作品の演奏に必要な知識と技術が体系的に学べます。

また選択科目としては、歌詞の解釈と正確な発音について学ぶ「オペラ台本購読法」、オペラ作品で多用されるイタリア語の理解を深めるための「オペラ特殊研究 C」、オペラ制作の演奏以外の様々な業務について学び体験する「舞台芸術インターンシップ」、修士論文の執筆を補助する「オペラ分析演習」などが開設されており、その他、声楽専攻が開設する各種の「声楽特殊研究」や他専攻が開設する授業、学部開設授業も履修することができ、より幅広い研究内容に対応しています。

学位取得にあたっては「演奏審査と論文審査の両方」または「演奏審査のみ」の2つの形態から選択することが可能です。学位審査会において評価され、合格した者には、「修士（音楽）」の学位が授与されます。